

インターバンクの声（2016年4月21日）

ニューヨーク市場の昼過ぎ、ドル円は4月15日に付けた109円73銭を超えたものの、そこから110円に向けてブレーキが掛ってしまった。少し下げている原油相場が米エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で在庫が減少していたことで回復に向かい、3月の米中古住宅販売件数も予想を上回ったことで、もう一段ドルが上がってもおかしくないようにも見えたが買いが続かなかった。やはり、一部から聞こえていた110円ストライクのオプションが昨日のニューヨーク午後5時に大量に期限を迎えていたのが邪魔していたのかも知れない。対円では動かなくなってしまったドルは、代わりに対ユーロで動かしに掛かったようにも見えたが、こちらは1.3000ドルがストライク価格だったオプションを切り崩したが、勢いはつかなかった。ドラギ総裁からハト派寄りの発言があるだろうとの思惑がもっばらだが、あまり深追いはしたくないのだろう。市場参加者も今週は少しやる気を失っているようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。